

# オリックス生命の経営内容

## 2008年度第2四半期(上半期)報告



オリックス生命保険株式会社

# オリックス生命保険株式会社の経営内容について

## 1. 米国会計基準(SEC基準)による主要な経営指標

	2006年度		2007年度		2008年度		2007年度
	上半期	対前 年比	上半期	対前 年比	上半期	対前 年比	
営業収益	65,960	94%	64,146	97%	61,744	96%	131,444
保険料収入	59,819		59,144		58,621		120,103
資産運用その他収益	6,141		5,002		3,123		11,341
営業費用	62,312	94%	61,099	98%	60,314	99%	123,931
責任準備金繰入額等	45,796		43,953		41,111		87,021
その他費用	16,516		17,146		19,203		36,910
税引前当期純利益	3,648	93%	3,047	84%	1,430	47%	7,513
法人税等	1,458		1,014		670		2,667
当期純利益	2,190	91%	2,033	93%	760	37%	4,846
総資産	608,497	99%	600,707	99%	568,132	95%	605,101
保険契約債務	494,866	95%	485,105	98%	469,906	97%	486,379
株主資本 (払込資本金)	64,631 (15,000)	108%	71,646 (15,000)	111%	66,600 (15,000)	93%	72,451 (15,000)

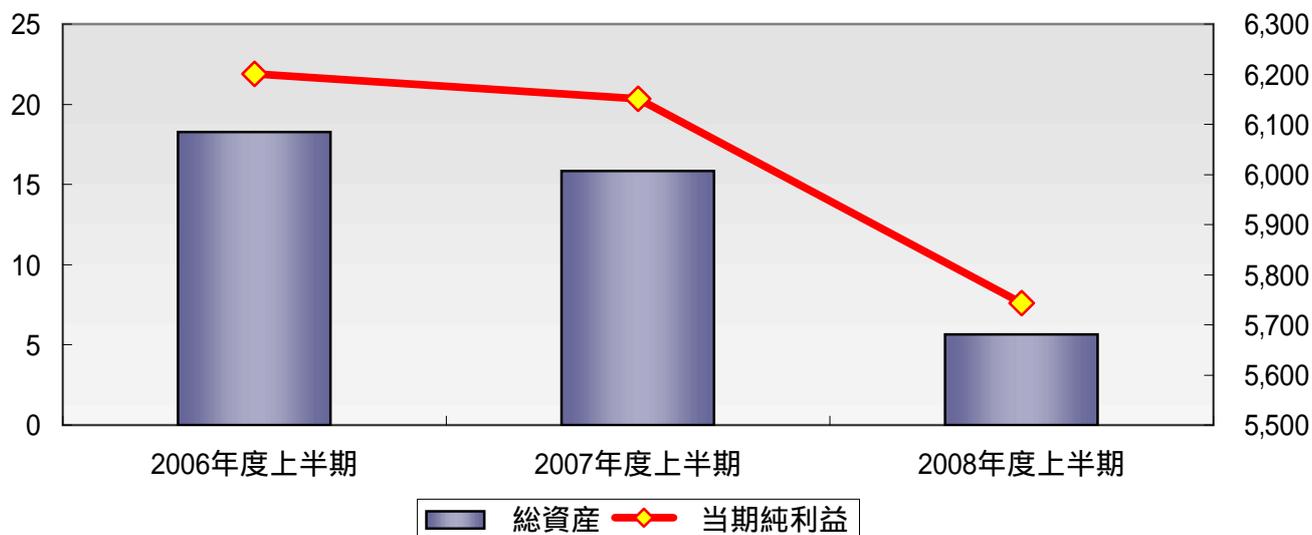
米国の証券取引委員会による決算方式(SEC基準)により作成しています。

当社では貯蓄性商品から保障性商品へのシフトを進めています。その結果、総資産が減少傾向を示しています。

当期純利益 (SEC基準)  
(単位: 億円)

総資産  
(単位: 億円)

利益等の推移



## 2. 営業数値

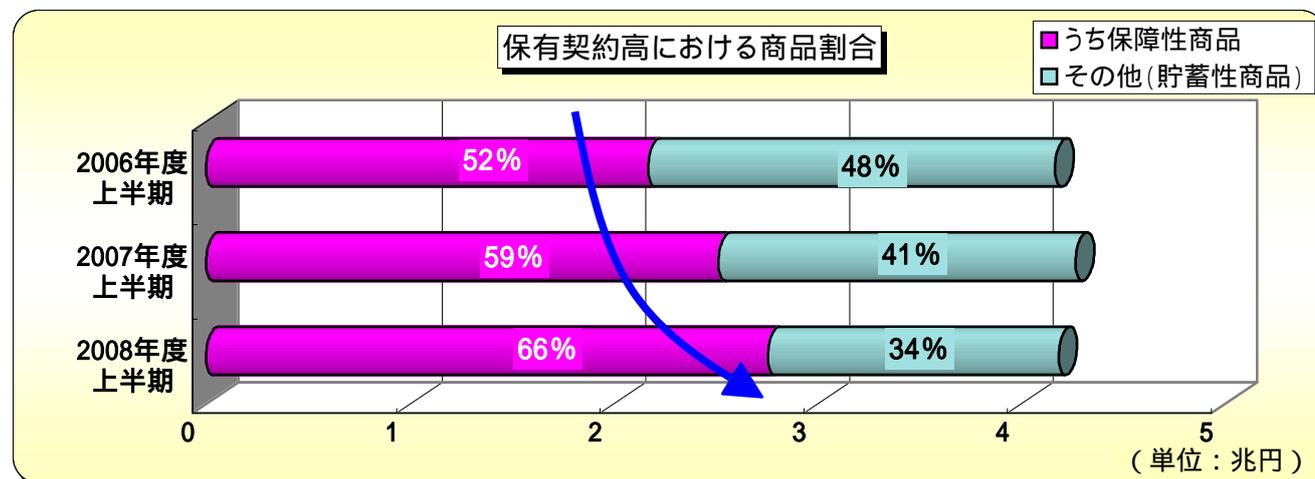
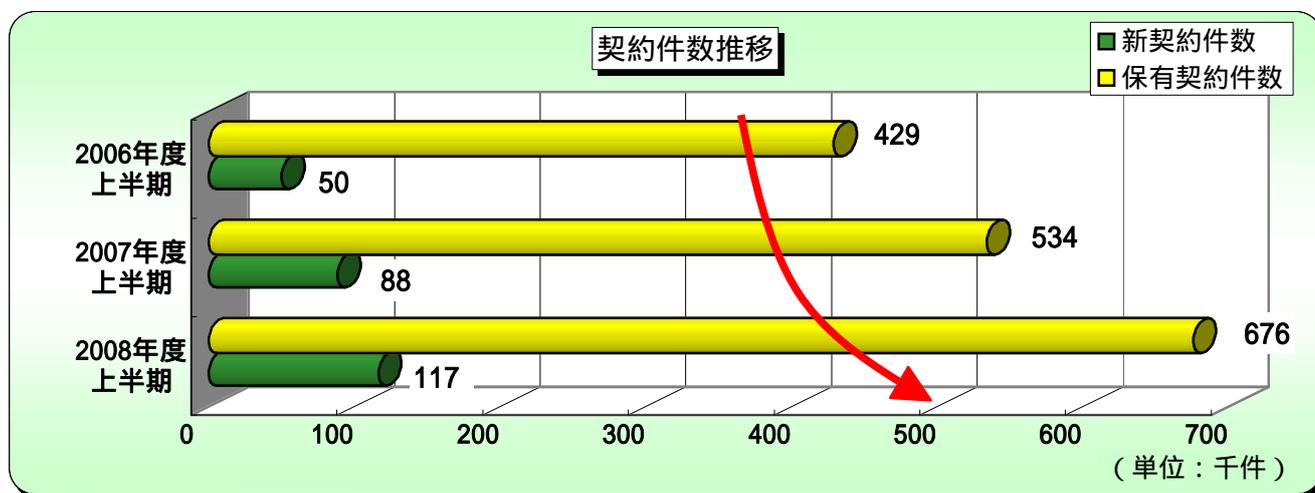
主力商品の医療保険CURE[キュア]や新商品の医療保険CURE Lady[キュア・レディ]の販売が好調に推移し、新契約件数は116,654件(前年同期比132%)、保有契約件数は675,724件(前年同期比126%)と増加しました。貯蓄性商品から保障性商品へのシフトは順調に進んでいます。保障性商品の占める割合は、保有契約件数ベースで90%、保有契約高ベースで66%となっています。

なお、「医療保険CURE(キュア)」には死亡保障がないため、契約高(金額)に反映されません。そのため、契約高は新契約、保有契約ともに減少しています。

		2006年度		2007年度		2008年度	
		上半期	対前 年比	上半期	対前 年比	上半期	対前 年比
新契約	件数	50,045	126%	88,476	177%	116,654	132%
	うち保障性商品	47,362	129%	85,788	181%	114,630	134%
金額	百万円	424,151	120%	316,243	75%	275,704	87%
	うち保障性商品	315,631	152%	294,573	93%	268,269	91%
保有契約	件数	429,191	104%	534,267	124%	675,724	126%
	うち保障性商品	332,966	117%	454,167	136%	608,449	134%
金額	百万円	4,167,543	108%	4,266,921	102%	4,184,208	98%
	うち保障性商品	2,167,808	124%	2,515,049	116%	2,756,011	110%

個人保険を対象としています。

定期保険、がん保険、医療保険等を保障性商品としています。



### 3. 収益管理状況

- (1) 会計基準として、米国証券取引委員会による決算方式(SEC基準)と日本の会社法基準とを併せて採用し、経営管理の指標としております。
- (2) 両基準によって、責任準備金繰入額の計算を含めた月次決算を行う等により、会社の財務状況を迅速且つ正確に把握しております。

### 4. 資本金および株主の状況

2008年11月13日に100億円の増資を実施し、資本金200億円、資本準備金62.04億円となりました。(増資前:資本金150億円、資本準備金12.04億円)

なお、第2四半期(上半期)決算は増資前です。

株主構成は下表のとおり、増資後も変更なく、オリックスグループ100%です。

株主	増資前		2008/11/13~ 増資後	
	持株数	持ち株比率	持株数	持ち株比率
オリックス株式会社	230	76.6%	430	86.0%
オリックス・インテリア株式会社	35	11.7%	35	7.0%
オリックス・レンテック株式会社	35	11.7%	35	7.0%
計	300	100.0%	500	100.0%

### 5. 格付け

当社の格付けは以下のとおりです。

格付投資情報センター(R&I)	保険金支払能力	「A+」
日本格付研究所(JCR)	保険金支払能力	「A+」
スタンダード&プアーズ(S&P)	保険財務力	「A-」

(2008年11月20日現在)

### 6. 責任準備金の積立状況

SEC基準では、米国における一般に認められた会計原則に基づいて積み立てております。会社法基準では、保険業法に基づいて標準責任準備金を積み立てております。

### 7. 平均予定利率

2008年度上半期の平均予定利率は2.07%となり、2007年度の上半期の平均予定利率2.11%からさらに低下しました。

### 8. 利回り

2008年度上半期のSECベース運用資産利回りは0.73%となりました。

また、2008年度上半期の会社法ベース総資産利回りは0.19%となりました。

### 9. 逆ざや

平均予定利率の低下以上に、基礎利益上の運用収支等の利回りが低下したため、14億円の逆ざやとなりました。

## 9. 会社法ベースによる財務指標

### 主要な経営指標

(単位:百万円)

	2006年度		2007年度		2008年度		2007年度
	上半期	対前 年比	上半期	対前 年比	上半期	対前 年比	
経常収益	77,545	79%	68,591	88%	76,748	112%	141,446
保険料等収入	60,993		60,198		59,138		120,615
資産運用収益	8,090		6,383		6,693		17,906
その他経常収益	8,461		2,009		10,915		2,924
(うち責任準備金戻入額)	(7,313)		(730)		(9,992)		-
経常費用	73,583	76%	70,481	96%	86,279	122%	144,011
保険金等支払金	60,114		56,331		64,061		106,383
その他費用	13,468		14,149		22,217		37,628
経常利益	3,962	794%	1,889	-	9,530	-	2,565
特別利益	565		-		-		-
特別損失	79		82		64		491
契約者配当準備金繰入額	429		334		294		589
税引前当期純利益	4,018	-	2,306	-	9,890	-	3,646
法人税等	1,401		775		3,528		1,228
当期純利益	2,616	-	1,531	-	6,361	-	2,418
資産	563,892	98%	552,837	98%	523,538	95%	557,278
運用資産	543,726		530,204		499,612		503,691
その他	20,165		22,633		23,925		53,587
負債	544,602	98%	532,829	98%	521,360	98%	542,739
責任準備金(含む危険準備金)	509,293		507,291		504,263		514,255
その他	35,308		25,538		17,096		28,483
純資産	19,290	112%	20,007	104%	2,178	11%	14,539
資本金	15,000		15,000		15,000		15,000
資本剰余金	1,204		1,204		1,204		1,204
利益剰余金	915		371		7,621		1,259
株主資本合計	15,289		15,832		8,583		14,945
その他有価証券評価差額金	4,000		4,174		6,405		406
基礎利益	4,139	303%	1,178	-	5,188	-	2,608
ソルベンシー・マージン比率	1,017.7%		1,174.8%		975.9%		1,217.0%
実質純資産	64,238	104%	66,212	103%	45,327	68%	60,180

(注) 責任準備金は、保険業法第116条の規定に基づく準備金であり、積立方式は標準責任準備金の対象契約については標準責任準備金、その他の契約については、平準純保険料式にて積立をしております。

## 資産運用状況

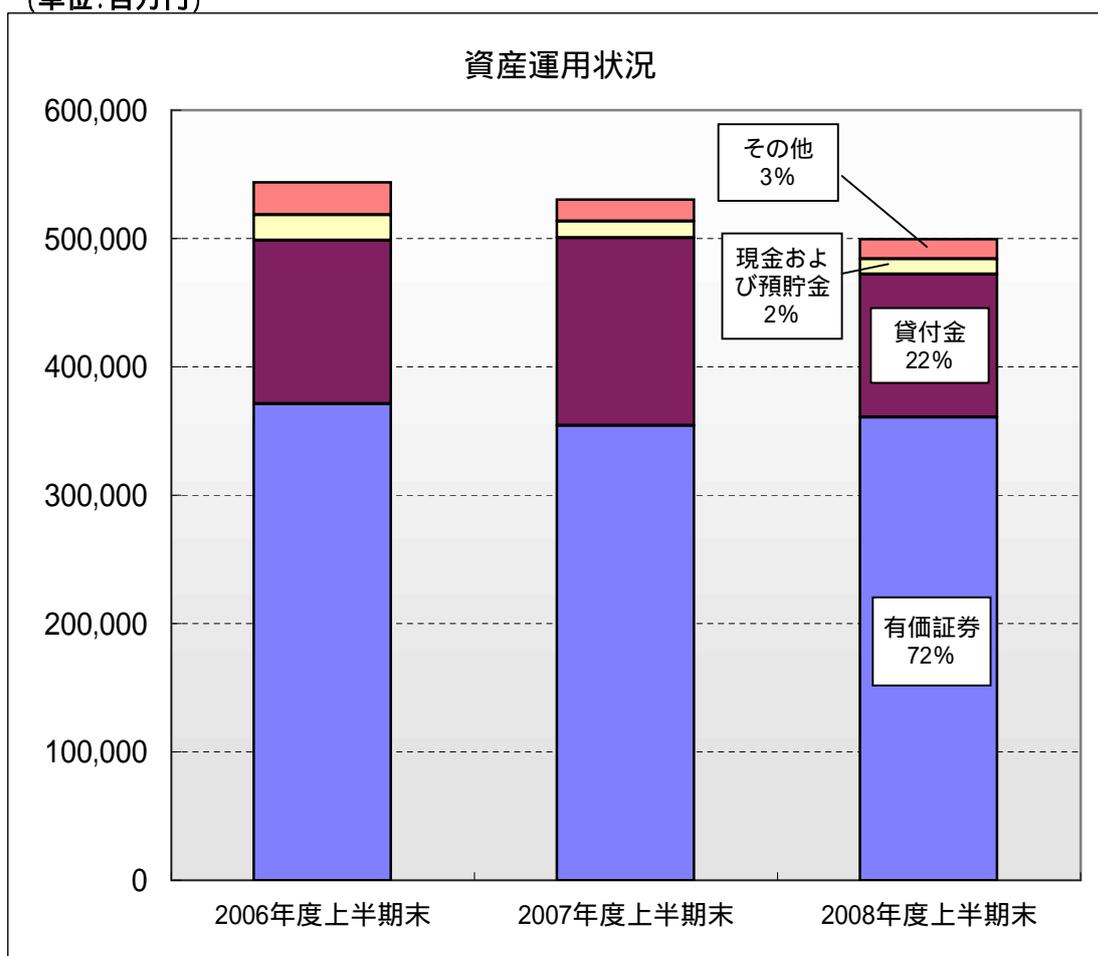
(単位:百万円)

	2006年度		2007年度		2008年度	
	上半期末	占率	上半期末	占率	上半期末	占率
有価証券	371,052	68%	354,171	67%	360,450	72%
貸付金	127,398	23%	146,168	28%	111,794	22%
現金及び預貯金	19,881	4%	13,042	2%	11,764	2%
不動産	79	0%	97	0%	194	0%
その他	25,314	5%	16,724	3%	15,408	3%
運用資産	543,726	100%	530,204	100%	499,612	100%

長期安定した運用収益の確保を目指し、公社債、貸付金等の確定利付資産(変動金利資産も含む)をポートフォリオの核としています。オルタナティブ、不動産投資信託(REIT)等のリスク資産への資産配分を減らしています。

2008年9月末の総資産に占める構成は、公社債52.4%、貸付金21.4%、外国証券13.7%、買入金銭債権2.9%となりました。上半期の資産運用収益は66億円、資産運用費用は72億円となり、ネットの運用収益は5億円となりました。ネットの資産運用収益を基礎に計算した総資産利回りは 0.19%となりました。

(単位:百万円)



経常利益等の明細(基礎利益)

(単位:百万円)

	2007年度 上半期	2008年度 上半期	2007年度
基礎利益 A	1,178	5,188	2,608
キャピタル収益	440	1,494	3,355
金銭の信託運用益	-	-	-
売買目的有価証券運用益	-	-	-
有価証券売却益	438	1,494	3,354
金融派生商品収益	-	-	-
為替差益	2	0	0
その他キャピタル収益	-	-	-
キャピタル費用	229	2,908	2,605
金銭の信託運用損	-	-	-
売買目的有価証券運用損	-	-	-
有価証券売却損	131	1,143	213
有価証券評価損	97	1,765	2,391
金融派生商品費用	-	-	-
為替差損	-	-	-
その他キャピタル費用	-	-	-
キャピタル損益 B	210	1,414	749
キャピタル損益含み基礎利益 A + B	968	6,602	1,858
臨時収益	-	-	-
再保険収入	-	-	-
危険準備金戻入額	-	-	-
その他臨時収益	-	-	-
臨時費用	921	2,927	706
再保険料	-	-	-
危険準備金繰入額	92	89	277
個別貸倒引当金繰入額	829	2,838	428
特定海外債権引当勘定繰入額	-	-	-
貸付金償却	-	-	-
その他臨時費用	-	-	-
臨時損益 C	921	2,927	706
経常利益 A + B + C	1,889	9,530	2,565

ソルベンシー・マージン比率

(単位:百万円)

項 目	2007年度 上半期末	2008年度 上半期末	2007年度末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	75,219	46,367	60,856
資本金等	15,832	8,583	14,945
価格変動準備金	1,347	1,470	1,410
危険準備金	3,126	3,401	3,312
一般貸倒引当金	392	746	382
その他有価証券の評価差額×90%(マイナスの場合100%)	5,889	10,041	637
土地の含み損益×85%(マイナスの場合100%)	—	—	—
全期チルメル式責任準備金相当額超過額	—	41,930	41,148
持込資本金等	—	—	—
負債性資本調達手段等	9,000	—	—
控除項目	—	—	—
その他	39,630	276	293
リスクの合計額 $\sqrt{(R_1 + R_8)^2 + (R_2 + R_3 + R_7)^2} + R_4$ (B)	12,805	9,502	10,000
保険リスク相当額 R <sub>1</sub>	2,609	2,573	2,611
第三分野保険の保険リスク相当額 R <sub>8</sub>	468	700	574
予定利率リスク相当額 R <sub>2</sub>	931	869	905
資産運用リスク相当額 R <sub>3</sub>	11,032	7,672	8,184
経営管理リスク相当額 R <sub>4</sub>	451	354	368
最低保証リスク相当額 R <sub>7</sub>	—	—	—
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	1,174.8%	975.9%	1,217.0%

(注) 上記は、保険業法施行規則第86条、第87条、第161条、第162条及び第190条、平成8年大蔵省告示第50号の規定に基づいて算出しています。「全期チルメル式責任準備金相当額超過額」は告示第50号第1条第3項第1号に基づいて算出しています。なお、2007年度上半期末の「全期チルメル式責任準備金相当額超過額」は「その他」に含まれています。

## 用語解説

### 責任準備金

死亡率は年齢とともに上昇しますが、保険料は通常平準払いです。このため、契約の前半では、実際の保障に必要な額以上の金額が保険料として収入されます。保険期間の後半ではこの逆の現象が生じます。保険期間全体でのバランスをとるため、収入保険料の一部を将来の保険金・年金・給付金の支払いに備え、保険業法で保険種類ごとに積み立てが義務付けられている準備金のことです。

### 平準純保険料式責任準備金

平準化された保険料の内訳として、純保険料（保障に充てられる部分）も付加保険料（事業費に充てられる部分）も平準化して取り扱った場合の責任準備金をいいます。事業費のうち初年度に大きな割合を占める新契約費を保険料払込期間にわたって平準化するので、新規参入の会社にとっては負担が重い積立方式です。他に代表的なものとして、「チルメル式」がありますが、当社は平準純保険料式を採用しています。

### 標準責任準備金

平準純保険料式責任準備金において、計算の基になる予定利率、予定死亡率を金融庁告示等による率とした責任準備金を標準責任準備金といいます。なお、有配当商品の場合の標準責任準備金は、特殊な場合を除き平準純保険料式責任準備金と同一です。なお、当社は無配当商品について、有配当商品の標準責任準備金と同じ水準で積み立てています。

### 危険準備金

将来の異常な支払いに備えるための準備金で、保険リスク（実際の保険事故の発生率が通常の予測を超えることによる危険）および予定利率リスク（責任準備金の算出の基礎となる予定利率を確保できなくなる危険）に備えるものとして、決算時に保険会社が積み立てるべき責任準備金の構成要素の一つです。

### ソルベンシー・マージン

ソルベンシー（支払能力）・マージン（余裕）とは、大地震や株の大暴落等通常の予測を超えて発生するリスクに対応できる「支払余力」を保険会社が有しているかどうかを判断するための行政監督上の指標の一つです。具体的には純資産勘定、価格変動準備金、危険準備金等の内部留保項目で構成されます。また、生命保険会社が直面する諸リスクを定量化してこれを分母とし、これら諸リスクに備えるためのバッファーとしてのソルベンシー・マージンを分子としたものがソルベンシー・マージン比率です。

### 基礎利益

有価証券の売却益等を考慮しないフローの基礎的な収益の状況を示す指標で、経常利益からキャピタル損益、臨時損益を差し引くことによって算出されます。

キャピタル損益は、有価証券売却益や為替差益等から有価証券売却損、有価証券評価損、為替差損等を差し引き、臨時損益は、再保険収入や危険準備金戻入額等から再保険料、危険準備金繰入額等を差し引きます。

### 実質純資産額

実質純資産額とは、有価証券や不動産の含み損益などを反映した「いわば時価ベースの資産の額の合計」から、価格変動準備金や危険準備金などの「資本性の高い負債をのぞいた負債の合計」を差し引いて算出するもので、行政監督上の指標の一つです。実質資産負債差額ともいいます。